

# 平成 26 年度事業報告

(自平成 26 年 4 月 1 日～至平成 27 年 3 月 31 日)

## I. 概況

平成 26 年度は、景気浮揚策に関わる施策を中心として国家予算の増額が図られ、コンクリートポール・パイルの需要環境としては、自然災害に対する国土強靱化を目指した公共事業費などの増額による建設需要、さらには、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた首都圏での再開発事業、国内産業の業績回復に伴う設備投資の回復などによる需要拡大が期待されたところから、平成 26 年度のコンクリートパイルの需要予測量は、全体で 3,210 千トン、前年度実績比 103.4%と予測したものの、年度当初から毎月前年を下回った出荷状況が続き、予測に反して大幅な減少となった。

この要因として消費税増税による駆け込み需要の反動減や、建設資材の高騰、建設機材や人材不足等の懸念による着工遅延などが考えられ、官需については増加したものの、民間設備投資が期待されたほどではないなど、パイルの需要分野において大きな比率を占める民間需要が落ち込んでいるところが大きく影響しているものとみられる。

このため、平成 26 年度のコンクリートパイルの出荷量は、2,798 千トン、前年度比 90.1%、予測比 87.2%と大幅な減少となった。

一方、コンクリートポールの需要量は、682 千トンで、前年度比 90.7%と前年を下回った。

コンクリートパイルの需要部門別では、官需は 941 千トンで前年度比 108.9%、民需は 1,857 千トンで前年度比 82.9%となった。

このような状況の中、平成 26 年度は事業計画に沿って以下の事業を行った。

## II. 会務

### 1. 会員の動静(順不同、敬称略)

#### 1.1 会員の入会・退会

入会 : なし

退会 :

(1) 松野コンクリート工業株式会社

- (2) 永井工業株式会社
- (3) 株式会社ガイアクス

現在数： 41

#### 1.2 賛助会員の入会・退会

入会： 岡部株式会社

退会： なし

現在数： 9

#### 1.3 会員代表者等変更の届出

(1) 九州高圧コンクリート工業株式会社(平成 26 年 6 月 20 日届出)

(新) 代表取締役社長 中西 章夫 (旧) 代表取締役社長 池松 勢三郎

(2) 萩森興産株式会社(平成 26 年 6 月 26 日届出)

(新) 代表取締役社長 村田 正史 (旧) 代表取締役社長 河村 光信

(3) ドーピー建設工業株式会社(平成 26 年 6 月 30 日届出)

(新) 代表取締役社長 稲田 義行 (旧) 代表取締役社長 荒木 映世

#### 1.4 住所変更の届出

(1) 大日コンクリート工業株式会社 (平成 26 年 10 月 10 日届け出)

(新) 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 1-10-20

(旧) 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 2-9-26

#### 1.5 会員社名変更

なし

## 2. 理事及び監事の選任

第 25 回総会(平成 26 年 5 月 22 日開催)において、前理事及び監事の任期満了に伴い、以下の理事及び監事が選任された。任期は、理事及び監事いずれも選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会(平成 28 年度)の終結のときまでとなっている。

理 事	黒瀬 晃	ジャパンパイル株式会社
理 事	野村 静夫	日本ヒューム株式会社
理 事	三谷 進治	三谷セキサン株式会社
理 事	網谷 勝彦	日本コンクリート工業株式会社
理 事	穂山 貞治	一般社団法人コンクリートポール・パイル協会
理 事	高橋 准一	北海道コンクリート工業株式会社
理 事	齋藤 敏	東北ポール株式会社
理 事	前田 直之	前田製管株式会社
理 事	前田 富弘	旭化成建材株式会社
理 事	植松 眞	株式会社トーヨーアサノ
理 事	高橋 脩	マナック株式会社
理 事	藤村 範夫	藤村ヒューム管株式会社

理事	内藤 雄順	東海コンクリート工業株式会社
理事	井狩 雅文	株式会社日本ネットワークサポート
理事	鶴川 稔	中国高圧コンクリート工業株式会社
理事	池松勢三郎	九州高圧コンクリート工業株式会社
監事	指田 宏明	指田宏明税理士事務所
監事	羽原 伸	一般社団法人コンクリートパイル建設技術協会

なお、総会当日に開催された理事会において、理事の中から以下の会長及び副会長並びに専務理事が選定された。

会長	黒瀬 晃
副会長	野村 静夫
副会長	三谷 進治
副会長	網谷 勝彦
専務理事	穂山 貞治

### 3. 会議

#### 3.1 『平成26年度(第25回)通常総会』

平成26年5月22日(木) 13:30~14:20 東海大学校友会館「富士の間」  
東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル35階

#### 3.2 『理事会』 平成26年度に開催された理事会は、次の通りである。

『第190回理事会』 平成26年4月17日(木) 11:00~12:00 ポパ協会会議室にて開催

『第191回理事会』 平成26年5月22日(木) 12:30~13:10 東海大学校友会館「霞の間」にて開催

『第192回理事会』 平成26年5月22日(木) 14:30~14:35 東海大学校友会館「富士の間」にて開催

『第193回理事会』 平成26年7月24日(木) 11:00~11:55 ポパ協会会議室にて開催

『第194回理事会』 平成26年10月23日(木) 11:00~11:30 ポパ協会会議室にて開催

『第195回理事会』 平成27年1月22日(木) 11:00~12:15 ポパ協会会議室にて開催

## Ⅲ. 事業報告

### 1. コンクリートポール・パイルの製造及び品質に関する普及・啓発

総務委員会に総務・広報部会、安全・環境部会、需要拡大部会の3部会をおき、普及・啓発のための事業を実施した。

#### 1.1 《総務・広報部会及び事務局》

(1) 協会誌の発行及びホームページの維持・管理

協会誌「礎」22号を発行し、会員各社及び各地区事務所に配布するとともに、関係官庁・関係機関等に提供配布し、コンクリートポール・パイルの普及啓発に務めた

(2) 軽油引取税の減税措置について、経済産業省から税制調査会への延長要望の結果、セメント製品製造業が平成27年度から3年間延長することが決定された。

(3) 経済産業省が中小企業への支援として行っているセーフティネット保証5号の指定業種としてコンクリート製品製造業が平成27年6月30日まで引き続き指定となった。

### 1.2 《安全・環境部会及び事務局》

(1) 安全・環境部会を開催し、平成26年の労働災害・労災保険率調査を行った上、その結果を以下の内容の報告書としてまとめ、会員及び関係機関に提供した。

- ① 平成26年労働災害実態調査結果の概要（災害件数、度数率、強度率、労災保険率、年間無災害工場など）
- ② 労働災害実績集計
- ③ 労働災害状況分析
- ④ 業務災害事例
- ⑤ 安全表彰事業場

(2) 各地区安全・環境対策委員会委員長会議を安全・環境部会と合同で開催し、各地区における労働災害報告及び第6回労働災害防止中期計画（平成26年～平成28年）の取り組み状況等について情報交換を行った。

(3) 安全表彰については、平成15年改訂の表彰規程により実施してきたが、規程の基準が複雑であること等から見直しが必要と判断し、安全・環境部会において改正案を作成した上、理事会の承認を経て平成27年1月22日付けで改正した。

### 1.3 《需要拡大委員会及び事務局》

(1) 平成26年度の各地区での需要拡大活動計画と前年度に実施した活動結果についての情報を集約し、各地区に提供した。

(2) 国土交通省主催による建設資材需要連絡会においてコンクリートポール及びパイルの需要動向について報告した。

## 2. コンクリートポール・パイルの製造及び品質に関する情報の収集・提供

### 《需要動向調査委員会及び事務局》

毎月コンクリートポール及びコンクリートパイルの生産、出荷、在庫状況について全会員からデータを収集し、その結果を生産・出荷・在庫統計、地区別出荷交流表、都道府県別・需要部門別出荷調査、径別生産・出荷の統計とし

て分析、集計しその報告書を会員並びに関係機関に提供した。

また、四半期ごとに需要動向調査委員会を開催し、各地区における需要動向の報告及び統計結果に基づき需要動向を調査・分析し、それらの結果を理事事に報告した。このほか、コンクリートパイルの平成 27 年度の地区別及び全国の需要予測を策定した。

### 3. コンクリートポール・パイルの製造及び品質に関する調査・研究

#### 《技術委員会及び事務局》

技術委員会及び分科会の合同会議を開催し、技術課題に関わる協会内外のこれまでの活動状況報告を行い、以下の件について調査、研究を行った。

- (1) 定期見直しを訪れる以下の JIS について、昨年度協会からの改正提案をコンクリート製品 JIS 協議会に提案したが、その後の JIS 原案作成委員会における審議結果の最終改正案の報告を受け、その内容について確認及び検討を行った。

JISA5361 プレキャストコンクリート製品－種類、製品の呼び方及び表示の通則

JISA5362 プレキャストコンクリート製品－要求性能とその照査方法

JISA5363 プレキャストコンクリート製品－性能試験方法通則

JISA5364 プレキャストコンクリート製品－材料及び製造方法の通則

JISA5365 プレキャストコンクリート製品－検査方法通則

JISA5372 プレキャスト鉄筋コンクリート製品

JISA5373 プレキャストプレストレストコンクリート製品

- (2) 公益社団法人日本コンクリート工学会から JISA1136 遠心力締固めコンクリートの圧縮強度試験の見直し改正に伴う意見照会があり、検討を行い回答した。

- (3) 一般社団法人コンクリート建設技術協会と共同して、高強度鉄筋及び従来型鉄筋を用いた PHC くい(JIS 強化くい)のせん断試験・曲げ試験等を実施し、耐力と変形性能を確認する研究を行った。

- (4) コンクリート製品 JIS 協議会の運営に参画し、コンクリート製品の技術動向等について情報収集を行った。

### 4. コンクリートポール・パイルに関する内外関係諸機関との連絡提携及び協力

#### 《事務局》

経済産業省、国土交通省、厚生労働省、試験機関等及び関係団体と連携を計りつつ、関係業務に対処した。

- (1) 経済産業省等の関係省庁からの要請に基づき、会員企業へ様々な周知を行った。
- (2) セメント関連団体協議会、一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会等の

事業に参加し、他業界との情報交換に務め、これを通じて関係団体とともに共同で関係官庁に意見・具申を行った。

## 5. 本会の目的を達成するために必要な事業

### 《運営委員会》

正副会長会議及び理事会からの諮問事項について審議し、答申した。また、協会の各委員会から理事会への上申事項についての調整・審議を行った。

以下は、平成26年度における運営委員会での主要な検討事項。

- ① 平成26年度総会議案及びその提案資料作成の審議、検討
- ② 一般社団法人コンクリートパイル建設技術協会から協力要請のあった、コンクリートパイルの変形性能に関わるデータ収集のための実証実験を協同で実施する件についての検討。
- ③ 平成27年度事業計画（案）及び収支予算（案）策定骨子の検討。
- ④ 平成27年度コンクリートパイルの需要予測の検討
- ⑤ その他

一般社団法人 コンクリートポール・パイル協会